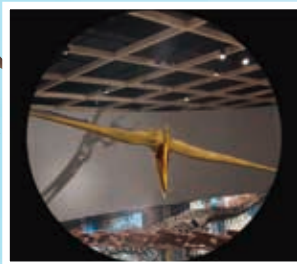


現代から太古の昔へタイムトリップ！ 自然史博物館へ知られざる魅力発掘の旅

問い合わせ 自然史博物館（大岩町字大穴 ☎41・4747）

のんほいパーク内に位置する豊橋市自然史博物館。そこは、化石や岩石、昆虫標本、貝類標本、骨格標本、剥製など約50万点もの宝の山が待ち受ける「タイムトリップへの扉」です。「生命はどうやって誕生したのか?」「私たちの祖先はどこから来たのか?」さあ、あなたも時空を超え、美しい地球の長い歴史を知る旅に出てみませんか?



左上：プテラノドンの全身骨格
上：望遠鏡で覗いて見える
プテラノドンの復元映像
(いずれも中生代展示室)

中生代 プテラノドン

翼を広げるとその大きさは9mにも及び、グライダーのように気流に乗って飛んでいたとされています。展示室の階段上にある望遠鏡を覗くと、天井に吊るされた標本と同じ高さから実際の動きを復元した映像を見ることができます。



上：アカドバラド
キシデス
(古生代展示室)
右：ファコプス
(イントロホール、
古生代展示室)

古生代 三葉虫

三葉虫は、古生代に繁栄した生物です。さまざまな環境に適応して、多種多様な形をしたものが生まれました。中には、ダンゴムシのように丸まるものもいたと考えられています。

中生代 (2億5,000万年～6,500万年前)

古生代 (5億4,200万年～2億5,000万年前)

中生代 ティタニテス (アンモナイト)

アンモナイトには、イカ・タコのような吸盤を備えた足があったと考えられています。中生代の展示室では、アンモナイトが生きていた姿を再現した展示を見ることができます。



古生代 ピカイア

約5億500万年前の海に生息していた生物で、背骨の原型である脊索を持つ動物です。ナメクジのようですが、かつては、すべての脊椎動物の祖先、つまり人間の祖先と考えられていました。館内では、ゲームやクイズでピカイアを進化させていくチェックラリーもあります。



上：ピカイア
右：ピカイア君チェックラリー (いずれも古生代展示室)

中生代

トリケラトプス

名前は「三本の角のある顔」を意味していて、角竜の仲間では最大の恐竜です。野外恐竜ランドでは、トリケラトプスを含む 10 体の実物大の恐竜模型をご覧いただけます。

トリケラトプスの模型（野外恐竜ランド）と全身骨格（自然史スクエア）



上：マイアサウラの模型
右：ブラキオサウルスの親子の模型（いずれも野外恐竜ランド）



エドモントサウルスの全身骨格（エドモントサウルス展示室）

中生代

エドモントサウルス

90% 実物化石からなる全身骨格です。イントロホール「ふれて楽しむ化石壁」には、実物の左大腿骨も展示しています。

中生代

現在

タクソケリスとアカウミガメ

中生代展示室では、非常に珍しい絶滅カメ類タクソケリスの全身骨格を見ることができます。郷土の自然展示室にあるアカウミガメの全身骨格と見比べてみましょう。



現在

新生代 (6,500 万年～ 259 万年前)



エドモントサウルスの左大腿骨（イントロホール）

宝石になった化石

化石の中には、長い時間かけて美しい鉱物（宝石）に置き換わったものもあります。



スフェノディスクス（中生代展示室）



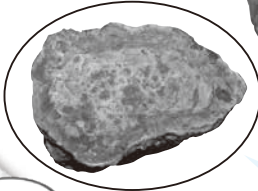
ティタニテスと再現映像（中生代展示室）

左上：アカウミガメの全身骨格（郷土の自然展示室）
右下：絶滅カメ類タクソケリスの全身骨格（中生代展示室）

毎週土・日曜日の午後1時・2時に開催している「ボランティアガイドツアー」では、イントロホール、常設展示室の見どころを最近の話題を交え、わかりやすく案内します。今回は、そのようすを覗いてみました！！



「まつぼっくり」も化石で残っています。恐竜は、まつぼっくりも食べていました。また、恐竜のお腹の中から石が見つっています。この石は、「胃石^{いせき}」といい、消化を助けていたと考えられます。



ほんとに!?

あれ？臭くないよ！



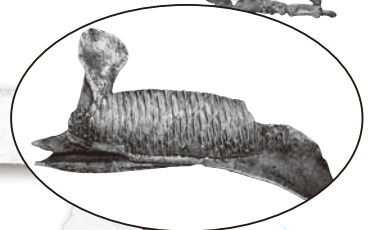
これは「糞化石^{ふん化石}」、つまり恐竜のうんちの化石です。骨や植物のかけらが入っているのが化石の断面から分かります。また、今回のツアーではティラノサウルスとトリケラトプスの歯を触らせてもらいました。大きさや質感も感じられます。

目の位置を想像すると…



わあっ!!!

骨格からは、恐竜たちが生きていた姿を想像できます。目の位置は、肉食のティラノサウルス(右)と植物食のトリケラトプス(左)とで、こんなにも違うんですね。



館長の想い



地球の歴史^{ただ}を辿る旅を

地球の誕生というグローバルな視点から、豊橋というローカルな自然までを凝縮して学べるのが豊橋市自然史博物館です。部屋ごとに完結する展示ではなく、「この動物はこう進化していったのではないか」と想像させながら、次の時代へとつながる発見があります。また、動植物公園の中にあることで過去と現在の動植物を通して、生物の繁栄と歴史を時間軸に沿って見ることができます。人が生き物の中でどういう位置にあり、どんな道を進んできたかを知り、地球環境について考えてもらえる場所でもあります。ここへ来る目的は、最初は別の興味からでもよいのです。何度も来なくなるきっかけをいろんなジャンルで作り、尽きない魅力発信をできるように活気ある博物館にしていきます。



松岡敬二館長



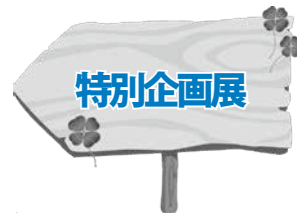
エドモントサウルス(4・5ページ)は、館内で第1号の収藏品。この購入がきっかけで博物館が誕生しました。また、生涯に生え変わる歯の総数は1万本を超えるととも言われ、下あごの化石(上)の内側を見ると、生え変わる歯が何本も用意されているようすが分かります。

左の首の長い恐竜は、中国・雲南省から見つかった全長17m、高さ4mのユアンモウサウルス。お腹の下から骨格を見上げることができます。復元した全身骨格は、豊橋市にしかありません。

日本には、ここにしかないなんてすごいなあ…。

お腹の下から見ると首から足までとっても長いね。





「^{よくりゅう}天空を制した巨大翼竜と鳥たち」を開催します



史上最大の空を飛ぶ脊椎動物ケツアルコアトルス(翼竜)
(画像提供：北九州市立自然史・歴史博物館)

昔から私たちは、自由に空^{かけ}を翔る鳥たちを羨望^{せんぼう}の眼差しで見つめるとともに、色鮮やかな羽毛^{まう}を纏い美しい鳴き声^{かな}を奏でる鳥たちに親しんできました。また、多様な自然環境をもつ東三河地方は鳥たちにとって非常に重要な地域で、一年を通して数多くの鳥たちを観察することができます。

今回の特別企画展では、約300点の剥製^{はくせい}や骨格標本を用いて、鳥たちをさまざまな角度から紹介します。また、史上最大の空飛ぶ脊椎動物「ケツアルコアトルス」の復元模型もあわせて展示します。

とき:7月10日(金)～8月30日(日)午前9時～午後4時30分(入場は午後4時まで) ※ナイトガーデン期間中(8月10日(月)～16日(日))も開催 **ところ**:特別企画展示室 **休館日**:月曜日(7月20日、8月10日は開館)、7月21日(火) **観覧料**:大人400円、小・中学生200円(別途総合動植物園入園料必要) ※未就学児、ほの国こどもパスポート持参の方は入園料・観覧料無料

<関連イベント>

■記念講演会

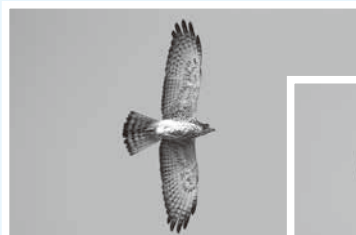
巨大翼竜は飛べたのか - 論文発表の反響とその後の進展

とき:7月26日(日)午後2時～3時 **対象**:小学4年生以上 **内容**:現生鳥類の飛行行動と比べながら、巨大翼竜は本当に空を飛べたのかなど、その生態について最新の話題を提供します **講師**:



現生鳥類 チョウゲンボウの全身骨格

佐藤克文さん(東京大学教授) **定員**:60人(申込順) **参加料**:無料 **入園料**:無料 **申し込み**:自然史博物館(☎41・4747 国 sizensi@toyohaku.gr.jp)



サシバ(画像提供:角村建一さん)



セグロカモメ(画像提供:高橋秀則さん)

■ワークショップ ^{とりだこ}鳥凧を作ってみよう!

とき:8月9日(日)午後1時30分～4時 **対象**:小学4年生以上 **内容**:鳥の形をした凧を作って、実際に飛ばしてみます **講師**:豊橋凧保存会 **定員**:25人(抽選) **参加料**:500円(材料費) **入園料**:無料 **申し込み**:7月23日(必着)までに返信先明記の往復はがきで行事名、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を自然史博物館(〒441-3147 大岩町字大穴1-238)

今後のここに注目!!

I 名古屋芸術大学との連携事業

自然史博物館は昨年、名古屋芸術大学との連携・協力協定を結び、学生による「ミュージアムコンサート」を開催しました。また、学生を受け入れ、実践教育の場を提供することで大学との交流を図っています。



昨年のクリスマスミュージアムコンサートのようす

さらに、豊橋駅の東西自由連絡通路のPRブースや博物館入り口に、学生が作成したモニュメントを設置予定です。若い感性や専門性をいかした展示に今後、注目してみてください。

II 新生代展示室の改装

新生代展示室は、現在リニューアル工事を行っています。演出効果のある魅力的な映像システムを用いた展示や、動植物公園とリンクした展示へ改装し、さらなるのんびりパークの魅力向上につなげます。

III 自由研究でお困りの方に朗報!

自然史博物館では、未公開資料が見学できる「収蔵庫たんけん」や「自然史トーク」「学習教室」など、学芸員によるさまざまな催しを開催しています。ここには、自由研究の題材がたくさん揃っています。また、「自由研究相談所」(詳細は今号21ページ参照)を設けます。気軽にお問い合わせください。